

福島県立博物館

学校との連携の充実をめざして

～多様な体験学習プログラムの提供～

【多様な体験学習プログラム】

福島県立博物館では、来館した児童生徒が博物館資料を用いて直接体験することは、多様なものの見方、考え方を養う上で有効であることから、学校等の様々な要望に応じて体験学習プログラムを実施している。具体的には、「古代の技に挑戦（考古）」「化石にふれてみよう（自然）」「糸紡ぎ（民俗）」「度量衡の統一と農民の暮らし（歴史）」等を提供し、学校との連携を図っている。



ハンズオンコーナー「土器にさわってみよう」

また、博物館のエントランスホール脇に無料の体験学習室を整備し、季節行事に関する展示解説員手作りの昔のおもちゃで遊んだり、昔の着物を着たりできるコーナー・資料を実際に手を取ったり使用法を体験したりできるハンズオンコーナーがある。ここでは、これまでに「化石は過去からの手紙、そして未来へのメッセージ（自然分野）」や「雪国のはきもの・かぶりもの（民俗分野）」などを開催している。また、体験学習室には、展示解説員が児童生徒に対応している。



【体験学習室】

【学校との連携事業の実際】

福島県立博物館は、福島県の特徴ある歴史や文化を学ぶことができるように、原始から近・現代まで「人々の暮らし」を中心として、政治や社会の動き、文化などについて、実物資料をはじめ模型や複製品、各種解説パネルなど約3,700点を展示している。

また、博物館には、学習支援班（民俗、自然、歴史、美術担当の4名）が組織され、児童生徒の学習活動がより実りあるものになるように、次のような学習支援事業を展開している。

① 自主学習用「博物館見学のしおり」「ワークシート」の作成

自由記述形式の「博物館見学のしおり」を作成し、常設展示を見学して書き込みながら学べるように構成されている。

展示資料をよく観察することによって、様々な考え方・まとめ方ができる内容になっている。また、ホームページからダウンロードできる「ワークシート」が用意され、



利用する団体が学習目的にあわせて使用できる。常設展示室のテーマ別に展示資料を題材にしている。

②指導者向け研修（博物館研修講座）の実施と、博物館利用の手引きの作成

学校教育関係者等を対象に、博物館の利用方法の周知や体験学習プログラムの利用促進を目的に体験型研修講座を実施している。博物館利用の手引きを作成し、博物館が行っている体験メニューや団体利用時の体験学習の事例を紹介している。

③体験的学習用具・器材等の貸出し

学校が行う体験的活動を支援するため、考古・歴史・民俗・自然の各分野で体験用具・器材の貸出しを行っている。

④学芸員の学校への派遣（ゲスト・ティーチャー）

博物館学芸員の専門知識や経験を館外でも有効に利用してもらうため、学校や公民館等の要請に応じて現地に赴き、体験学習や講話を中心とした授業を実施している。

⑤職場体験

生徒の適切な進路選択に寄与するため、学校からの要請を受け入れ、実際に博物館業務を体験させる体験を提供している。

【成果と課題】

○児童生徒に対応した多様な体験学習プログラムが用意され、充実した学校との連携の取組が行われている。

○学習支援班を中心に計画的・具体的な学習支援事業が、効果的に展開されている。

○博物館の入館者数が減少傾向にある。博物館の多様な利用の仕方を理解していただくため、博物館研修講座を県内各地域で開催することを検討することも必要である。

《施設データ》

館名：福島県立博物館

所在地：〒965-0807

福島県会津若松市城東町1番25号

電話：(0242) 28-6000

FAX：(0242) 28-5986

設置年：昭和61年

設置主体：福島県教育委員会

ホームページ：<http://www.general-museum.fks.ed.jp/>

入館者数：平成20年度 83,275人

